

## 令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年 国語 105人 社会 106人 数学 106人

理科 107人 英語 108人

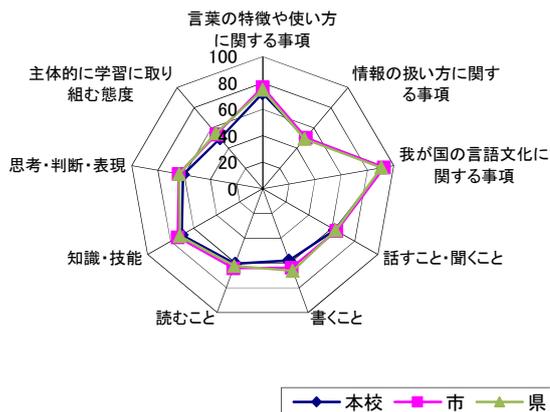
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	76.9	74.9
	情報の扱い方に関する事項	50.0	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	92.4	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	62.7	64.2	63.4
	書くこと	58.1	63.7	66.4
	読むこと	60.6	64.2	62.5
観点	知識・技能	70.2	73.7	71.9
	思考・判断・表現	60.8	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	49.7	53.8	54.8



## ★指導の工夫と改善

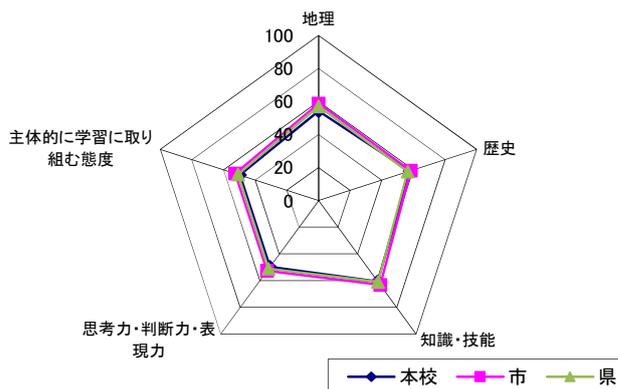
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みの問題では、正答率が高い傾向がある。 ●県とは2.6%, 市とは4.6%の差がある。 ●漢字の書きの問題では正答率が低くなる傾向がある。	・漢字については、日々の家庭学習や授業の際のミニテストなどを用いて、定着を図っていく必要がある。 ・漢字の読みについては、今後も読書を奨励しながら、多くの言葉と触れ合う機会を意図的に設定していく。
情報の扱い方に関する事項	○県を0.8%上回っている。 ○文章から必要な情報を探すことができる生徒が多い。 ●市とは0.3%の差がある。 ●文章から読み取った情報をまとめ直すことを苦手としている生徒が多い。	・文章の中から必要な情報を見つけることができているが、それを自分なりにまとめ直す活動を苦手としている生徒が多い。今後は、文章を要約する活動を多く設定し、ポイントとなる語句や重要な語句を見つけることができるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	○県を1.7%上回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題でも正答率が高い。 ●市とは0.2%の差がある。	・歴史的仮名遣いについては、単純な問題なら多くの生徒が理解できているが、「まうーもう」など、複数の音が組み合わさったものは十分に理解しているとは言えない状況である。そのため、授業の中で定期的にこれらに触れ、理解を深めていきたい。
話すこと・聞くこと	○放送を聞き、内容について選択肢から答える問題の正答率が高い。 ●県とは0.7%, 市とは1.5%の差がある。 ●自分の考えを含めたり、話の内容について説明を加えたりする問題での正答率が低い傾向がある。	・放送を聞き、必要な情報をメモすることを苦手としている生徒が多い。そこで、日々の授業の中で必要なことをメモしたり、重要な情報かどうかを考えたりしながら授業を受けさせたい。
書くこと	○行数や段落構成など、文章のレイアウト面では条件を満たして書ける生徒が多い。 ●県とは8.3%, 市とは5.6%の差がある。 ●自分の考えを明確にして書くことを苦手としている生徒が多い傾向がある。	・授業の中で、自分の考えをまとめたり、言い換えたりして表現することを授業の中で、今以上に取り組んでいく必要がある。さらに、友人の意見や考えに触れる機会も設け、様々な考え方や表現の仕方に気づくことができるようにしていきたい。
読むこと	○文章の内容理解や登場人物の心情把握に関する問題では正答率が高い傾向がある。 ●県とは5.1%, 市とは4.1%の差がある。 ●文章の構成や展開について、根拠を示しながら説明する問題の回答率が低い傾向がある。	・セリフや描写から、感情移入をして考えることができている生徒は多いが、同時に文章同士の関係や段落の関係などに対して理解ができていない生徒も多い。それらの際にポイントとなる、接続語や指示語の関係を理解できるように授業の中で取り組んでいく。

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	54.1	58.7	57.0
	歴史	57.8	58.3	56.4
観点	知識・技能	60.6	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	49.6	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	49.7	52.6	50.8



## ★指導の工夫と改善

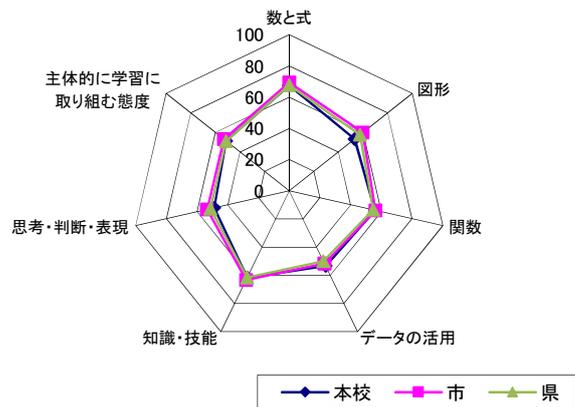
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○乾燥した地域に住む人々の暮らしについての資料読み取り問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○ヨーロッパ州の経済格差の課題について、複数の資料を基に考察する問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○世界のさまざまな国の国旗に関する問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は県・市より低い。</p> <p>●経度や緯度を利用した模式図の読み取り問題の正答率は、県の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>●日本の姿の分野の平均正答率が、県よりも低い。特に日本の領土や排他的経済水域について問題の平均正答率は、県の正答率を下回っている。</p> <p>●資料を読み取ったり、複数の資料をもとに考察・表現したりする問題の正答率が低い。</p> <p>●雨温図を読み取る力が低い。</p>	<p>①全体的に、歴史より地理の方が苦手意識をもっている。特に日本地理の分野では、正答率から見たときに苦手意識が強い。今後は、栃木県以外の都道府県や宇都宮市以外の市町村・関東地方以外の地方を身近に感じられるように、動画教材やデジタル教科書などのICT教材を積極的に使い、興味関心が得られるような授業を展開していく。</p> <p>②地図をはじめとした、資料の読み取りの力が弱い。そのため、授業の最初に小テスト等の復習の時間を導入していき、資料活用の技能の定着を図る。また、日ごろの授業で地図や資料に触れる機会を増やしていく。</p> <p>③資料をもとに考察する問題の正答率が低いことから、授業中に資料の読み取りを行ったり、資料読み取りをもとに自分の考えを記述し他の人と意見を交換したりする時間を取り入れていく。特に、資料の読み取りの視点やポイントを、その都度授業で確認していく。</p> <p>④雨温図の読み取りについては、雨温図自体の読み取りの方法を授業でその都度確認するとともに、各地域の様子を生徒に提示することで、雨温図と実際の地域の様子を結びつけられるようにしていく。</p>
歴史	<p>○全体の平均正答率は、県よりも高い。</p> <p>○中世の日本についての問題の平均正答率は、県よりも高い。</p> <p>○年代の表し方についての問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○卑弥呼に関する問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○鎌倉幕府の政治と元寇との関連について、複数の資料を基に考察する問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○勘合貿易についての問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●資料を読み取ったり、複数の資料をもとに考察・表現したりする問題の正答率が低い。特に複数の資料をもとにする問題の正答率は、県と比べると大きく下回っている。</p> <p>●古代の日本(飛鳥～平安)に関する問題の平均正答率が、県よりも低い。</p>	<p>①全体的に、地理より歴史の方が興味関心をもっている。しかし、市の平均正答率には及ばないので、さらに歴史に興味関心を持つ生徒が増えていくように、歴史的な事象が身近に感じられるように、動画教材やデジタル教科書などのICT教材を積極的に使う授業を展開していく。</p> <p>②1学年で学習した事項を確認するために、授業の最初に小テスト等の復習の時間を導入していき、知識の定着を図る。</p> <p>③資料をもとに考察する問題の正答率が低いことから、授業中に資料の読み取りを行ったり、資料読み取りをもとに自分の考えを記述し、他の人と意見を交換したりする時間を取り入れていく。特に、資料の読み取りの視点やポイントを、その都度授業で確認していく。</p>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.5	69.3	67.7
	図形	53.1	59.8	57.7
	関数	55.8	56.2	54.7
	データの活用	53.3	51.6	49.9
観点	知識・技能	61.6	63.2	61.5
	思考・判断・表現	48.9	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	51.4	53.0	51.2



## ★指導の工夫と改善

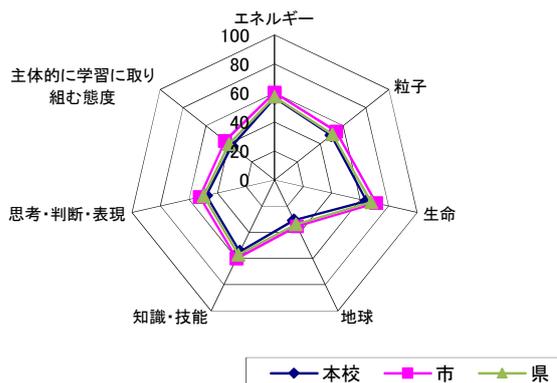
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正負の数の計算や素因数分解についてはおおむね良好である。</li> <li>●平均正答率は、県の平均よりも1.8ポイント低い。</li> <li>●比例式を解く問題では県の平均を6ポイント下回っている。</li> <li>●文章題から一次方程式を立式する問題について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数、文字式の計算は計算問題の基盤になるものなので、授業の中で計算のポイントを確認し、ワークやプリントで練習を繰り返し行う。</li> <li>・文章題から必要な情報を抜き出して立式したり、説明したりする問題は苦手とする生徒が多いので、解き方のポイントを押さえて、類似問題に取り組ませ、定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、県・市よりも低い。</li> <li>○角の二等分線の作図の問題では、県の平均を6ポイント上回っている。</li> <li>●おうぎ形の面積や球の表面積を求める問題では、県の平均を10ポイント程度下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積や体積の求め方が定着していないので、公式をよく確認して、定着するように多くの問題に取り組ませる。</li> <li>・基本的な作図は理解できているので、定期的に復習を取り入れ、様々なパターンの問題に対応できるようにする。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、市よりも若干低い。</li> <li>○比例の関係を式に表す問題については、県の平均を9ポイント上回っている。</li> <li>●反比例の関係の表をもとに値を求める問題は県の平均を6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・式、表、グラフをそれぞれ単独のものではなくつなげて考えられるように授業の中で、確認しながら問題に取り組ませる。</li> <li>・比例の関係に比べて反比例の関係についての理解が弱いので、基本的なことを一つ一つ丁寧に確認し、復習問題に取り入れながら、今後の問題に対応できるようにする。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は、県、市を上回っている。</li> <li>○資料から読み取った傾向をもとに、説明する問題については県の平均を9ポイント上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも用語の意味や求め方をよく整理し、問題に取り組ませ、小テスト等で確認する。</li> <li>・さらに力を付けるために、授業の中で自分の考えを説明する機会を増やしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	56.7	60.3	57.4
	粒子	49.7	53.8	50.7
	生命	64.5	71.2	67.8
	地球	30.7	35.3	33.8
観点	知識・技能	54.7	59.9	57.0
	思考・判断・表現	47.9	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	37.5	43.3	39.8



## ★指導の工夫と改善

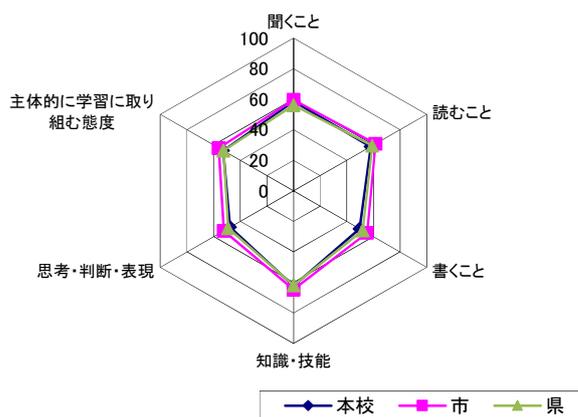
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○正答率は市・県のものよりも下回っているが、他の領域と比べると差はほとんどない。音の性質については、高い正答率を得ている。</p> <p>●正答率は、市の平均値よりも3.6ポイント、県の平均値を0.7ポイント下回っている。</p> <p>●力の性質に関する問題では、全体的に正答率が低くなっている。特に、おもりがばねを引く力に関する問題は、正答率が県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・エネルギー分野で扱うものは、身近に存在し、それを使って生活が成り立っているが、目で見て確認できない存在であるため、理解しづらい生徒が多い。そこで、身近な現象と結びつけることを意識した授業展開をしていく。</p> <p>・力の作図の理解が困難な生徒も多くいるので、問題演習を授業に取り入れ、反復学習ができるようにする。</p>
粒子	<p>○物質の密度や気体の性質の違いを指摘するような問題では、正答率が高くなっている。</p> <p>●正答率は、市の平均値よりも4.1ポイント、県の平均値を1.0ポイント下回っている。</p> <p>●水溶液の性質に関する問題では、全体的に正答率が低くなっている。溶解度について理解できていない。また、金属と非金属の分類に関する問題は、正答率が県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・粒子分野では、物質の量的な関係をとらえるのが苦手な生徒が多い。また、グラフを読み取ったり、計算をしたりなど数学的な考え方が必要のため、そこに苦戦してしまう生徒も少なくない。授業には実験を多く取り入れ、その結果からグラフを書いたり考察したりする時間を丁寧に扱う。また、計算問題については、問題演習の時間を確保していく。</p>
生命	<p>○植物や動物の特徴や共通点に注目した分類に関する問いでは、正答率が高くなっている。</p> <p>●正答率は、市の平均値よりも6.7ポイント、県の平均値を3.3ポイント下回っている。</p> <p>●ビワの花の問いのように教科書に例示されていないことや、無脊椎動物の分類のように複雑なものに関する問題では、正答率が県の平均を大きく下回っている。</p>	<p>・生命分野では、植物や動物の種類がかなり多いため、授業で例示するものをどうするか課題である。そのため、例を提示するときには、画像や動画を活用して視覚的に印象付けたり、インターネットを使って自分で調べる時間を設けたりするなど、幅広い知識が付けられるような指導の工夫をする。また、応用力も身に付くよう、自ら気付くことができるような授業展開を取り入れる。</p>
地球	<p>○地震に関する問題の正答率が、火山や地層の分野よりも高くなっている。</p> <p>●正答率は、市の平均値よりも4.6ポイント、県の平均値を3.1ポイント下回っている。</p> <p>●火山・地層・地震のすべての問題の正答率が、他の領域の正答率に比べて大きく下回っている。特に、柱状図に関する問題の正答率が最も低くなっている。</p>	<p>・地球分野では、地球規模の創大なものや地域差のある事象が出てくるため、あまり身近に感じられず、イメージしにくいものが多い。教材として用意しにくいものもあるので、画像や動画を活用し、より身近に実感を持てるような授業の工夫をしていく。また、防災教育につながる内容も多いので、正しい知識が付けられるような授業を行う。</p>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.6	59.6	56.1
	読むこと	57.9	61.6	59.1
	書くこと	49.6	55.2	51.9
観点	知識・技能	62.3	64.7	61.9
	思考・判断・表現	47.5	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	52.8	56.1	52.5



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○県平均を5ポイント以上上回ったのは、「教科を表す絵を適切に表す英文を聞き取る」8.9ポイント、「だれかを聞き取り適切に回答する」11.2ポイント、「長文の要点を聞き取る」8.0ポイントであった。</p> <p>●「聞くこと」の観点では、県平均正答率を2.5ポイント上回っているが、市平均正答率を1ポイント下回っている。</p> <p>●県平均を5ポイント以上下回ったのは、「状況を表す絵を適切に表す英文を聞き取る」9.1ポイントであった。</p>	<p>・普段の授業で聞き慣れていることは、容易に聞き取ることができる。普段からクラスルームイングリッシュを多用し、聞く機会を可能な限り作っていく。</p> <p>・話し手の意図や気持ちを考えながら聞くよう、繰り返し指導を行う。</p> <p>・対話活動においては、感染対策を十分とりつつ、相手の発言に対し何らかのリアクションをとりながら対話活動を行うことを意識させる。</p>
読むこと	<p>○県平均を5ポイント以上上回ったのは、「英文の情報を正しく読みとる」5.9ポイントであった。</p> <p>●「読むこと」の観点では、県平均を1.2ポイント、市平均を3.7ポイント下回っている。</p> <p>●県平均を5ポイント以上下回ったのは、「一般動詞の過去形の疑問文」8.2ポイント、「be動詞の過去形」9.5ポイント、「対話の流れから、適切な発言を選ぶ」5.9ポイントであった。</p>	<p>・過去の事柄についての対話活動を適宜取り入れることで、過去形の文型や語形変化に慣れさせる。</p> <p>・動詞についての理解や、語彙(動詞に限らず)そのものを身に付ける必要がある。フラッシュカードを用いて適宜復習を行うことで、語彙の定着をはかる。</p> <p>・読解の際には、答えの根拠となる英文や単語にマークするよう指導する。</p>
書くこと	<p>○県平均を上回る項目はなかったが、「現在進行形の否定文」は県平均正答率に近い回答率であった。</p> <p>●「書くこと」の観点では、県平均を2.3ポイント、市平均を5.6ポイント下回った。</p> <p>●県平均を5ポイント以上下回ったのは、「三人称単数現在時制のcanを使った肯定文」7.5ポイント、自己紹介を「3文以上で書く」5.6ポイントであった。自己紹介で、自分の名前を書くことができなかった生徒が3割もいた。</p>	<p>・身近な事柄について、基本的な単語を用いながら表現できるよう、対話活動を充実させる。</p> <p>・話したことを英文で書く練習を増やす。</p> <p>・教科書で扱う基本的な英文を書く際は、既習の英単語を用いて正しい文で書けるよう、支援する。</p>

## 宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は96.3%である。また、「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した生徒の割合は50.9%で市の平均より5ポイント高かった。今年度は、平日に家庭学習ノートを提出させ、土日にはAIDリルから課題を出しチェックしている。予習への意識の高さもその取組の成果と考えられる。

○「学校のきまりを守っている」と回答した生徒の割合は99.1%「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した生徒の割合は98.1%と規範意識や自分のやるべきことへの責任感は軒並み高い。一方「自分には、よいところがあると思う」と答えた生徒は72.9%で市の平均と比べて3ポイント低い。肯定的回答の内訳を見ると「はい」31.5%、「どちらかといえば はい」40.7%で、「はい」とより強く肯定した割合の生徒が市の割合より9ポイント低い。学校行事や学年行事だけでなく、日々の生活の中で、生徒の自己有用感・自己肯定感を育てていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた生徒の割合は71.1%で市の平均より3ポイント高い。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に否定的回答をした生徒の割合は60.2%で、自分の考えをまとめたり、表現することに苦手意識があるとの結果が出ている。授業の中で自分の考えをまとめるためには、他者との学び合いが重要なので、改めて話し合いの手順を示し、少人数のペアやグループで自分の考えを伝える機会を多く設けて、自信を付けさせる。

●「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」と回答した生徒は60.2%で市の平均より8ポイント低く、「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」と答えた生徒も市の平均より10ポイント低い。今後は、広く世界や社会に目を向け、わからないことや疑問に思ったことをあやふやにせず、探求心を持ってねばり強く学習する態度を育てていく。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習を中心とした自主学習の内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習ノートの提出による自主学習の習慣化を図る。</li> <li>学習計画表の作成と個に応じたアドバイスを通じて、家庭学習の質の向上を図る。</li> <li>週末はタブレットによるAIDリルの課題に取り組ませ、基礎基本の定着を図る。</li> </ul>	「家で学校の宿題をしている」と回答した生徒の割合は96.3%である。また、「家で、学校の授業の予習をしている」と回答した生徒の割合は50.9%で市の平均より5ポイント高いとの結果が出ている。
学び合いを通じた確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・領域等において、話し合い活動、発表などの機会を意図的に増やす。</li> <li>少人数のペアやグループで自分の考えを伝える活動を積極的に取り入れ、表現力を高める指導を重視する。</li> </ul>	「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた生徒の割合は71.1%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に否定的回答をした生徒の割合は60.2%で、自分の考えをまとめたり表現することに苦手意識があるとの結果が出ている。